

今まで以上に学校に求められる組織力の向上

8月号の特集を読んで強く感じたのは、ビジネス書などでよく見かける「組織力」が、これまで以上に学校教育で求められるようになってきていることだ。もちろん、これまでも教科や学年、部活動などの組織を中心に学校は運営されてきたが、それらの小さな集団の枠を超えて学校という大きな枠組みで物事を考えていく時代に本格的に入ってきたのだと思う。高校教育改革の中で求められる「生徒を多面的に評価する」ことや、教科横断的な探究活動を行わせるための「カリキュラム・マネジメント」など、個人や小集団では達成できないことが増えてきたことを、今回の特集で改めて実感した。

「茨城県立水戸第一高校・川久保典昭」

達成感が日々の活力を生む

8月号の「ハートをこがせ！」を読み、食文化の担い手を育てる上でも、三重県立相可高校が取り組んでいることには大きな意味があると思った。人から感謝されることを、調理を行う実践の場で実際に感じ取れることはよい経験になるし、どんな形であれ、達成感を感じることが、毎日の活力を生むことになる。難しいことではあるが、そのような場をすべての高校生に与えられないものだろうか。

「静岡県立浜松南高校・中野雅弘」

「待つ」ことがアクティブ・ラーニングをよりよくする

8月号の「実践 アクティブ・ラーニング」

Reader's VIEW

Volume 4

読者のページ

読者の先生方からのご意見を紹介します

は、とても参考になった。特に、生徒に「自分の軸」をつくらせるという視点は、改めて大切だと強く感じた。以前から「待つ」ことを重視しているが、この授業はその最たるものなのだと思う。「待つ」ことは、指導側の力量が問われるが、そのためには、観察力と生徒には見えないコントロール力が必要になる。それらが欠けると、恐らくアクティブ・ラーニングは、うまく成り立たないのではないかと待つことができる教師の自信が、アクティブ・ラーニングをよりよくすることになると思う。

「埼玉県・私立大妻嵐山中学校・高校・久保島昌二」

「仕かける進路指導」の大切さを認識

8月号「指導変革の軌跡」の群馬県立桐生高校は、本校と学校事情が似ており、大変興味深く拝読した。「難関大志望チャレンジセミナー」の開催のみならず、校長室で担任が礼服で臨む模試の成績優秀者の表彰や、幟に染めたスローガンをういた決起集会など、「演出」や「仕かけ」が実に面白い。学年が進路行事の企画・運営を行う点や「上昇桐生」という進路だよりのネーミングも含め、取り組みにかける教師の想いや熱意が伝わってくる。改めて、「仕かける進路指導」の大切さを認識した。

「滋賀県立草津東高校・堀浩司」

教師川柳

それぞれの生徒が主役の秋行事

兵庫県・とんちんかん

『VIEW21』高校版はウェブサイトでもご覧いただけます！

本誌の最新号、及びバックナンバーは、ベネッセ教育総合研究所のウェブサイトで公開しております。誌面のPDFや「改良！指導ツール ピフォーアフター」の図版もダウンロードできます。ぜひご利用ください。

詳しくは

VIEW21 高校版

検索

<http://berd.benesse.jp/magazine/kou/>



編集後記

◎今号の「ハートをこがせ！」の取材では、埼玉県立上尾橘高校の生徒たちと一緒に、南三陸町を訪問いたしました。私が被災地を訪問したのは4回目ですが、道などが整備され、復興が進んでいることがうかがえた一方、今なお仮設住宅で暮らす方々を見て、自分の震災の記憶や印象が薄れていることに気づきました。ある生徒は、「実際に目で見て、聞いたことを伝え続けなければならない」と話していましたが、発信し続けることの大切さを再認識しました。今回の記事も、その1つとなれば幸いです。(廣田)

VIEW21 10月号 Vol.4

2016年10月17日発行

発行人 山崎昌樹
 編集人 春名啓紀
 発行所 (株)ベネッセコーポレーション ベネッセ教育総合研究所
 印刷製本 (株)協同プレス
 編集協力 (有)ペンダコ
 執筆協力 中丸 満、二宮良太、長谷川敦
 撮影協力 荒川 潤、川上一生、田中秀和、筒井岳彦、ヤマグチイキ

VIEW21編集部
 〒163-0411 東京都新宿区西新宿2-1-1 新宿三井ビルディング13階

©Benesse Corporation 2016

VIEW21

2016
 December
 12月
 Volume 5

次号は
 12月12日発行(予定)
 『VIEW21』高校版は
 年6回の発行です